

低学年提案

研究主題

「Let's try communication more!」～児童が主体的に取り組む外国語教育の創造～

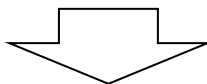
目指す児童像

簡単な表現や言葉を用い、友達と楽しく関わり合える子ども

☆1年研究授業 外国語 単元名『6年生ありがとう! Thank you カードをつくろう』

1年生児童の実態

- 英語が聞こえると、真似をしようと自然に声を出している様子も見られ、意欲的に外国語に取り組もうとしている。
- 個人では楽しんで活動しているが、友達同士の関わり合いが少ない。



- ◎6年生にカードを作るというゴールを設定したことで、活動に必然性が生まれる。
- ◎カードを完成させるために、花びらシールを受け渡しすることで、児童同士の関わり合いが増え、意欲的に児童は取り組むようになる。

「児童が主体的に取り組む」ための手立て

(1) 身近な表現や言葉に慣れ親しむ

○外国語に慣れ親しむための導入の工夫

歌では、身振り手振りで表現することによって、楽しみながら身近な表現や言葉に慣れ親しむことができるようにした。♪Hello song で身振りをつけるにあたり、手本として見せた教師の身振りをベースとして、児童から身振り手振りのアレンジの提案があった。児童の意見を動きの中に反映させ、体を動かしながら、主体的に楽しく外国語活動に取り組もうという雰囲気作りをしている。

○言葉や表現の掲示の工夫

花びらシールを受け渡しするときにする表現は、1年生の実態として、視覚的情報が多いと理解しにくいことに加え、英文を掲示しても児童は読むことが難しいと考える。そこで、英文は掲示せず、今回のやり取りで重要な場面（①シールを受け渡ししている場面、②相手が欲しいシールを持っていないと伝えている場面）の絵のみ掲示することとした。場面の絵を指しながらチャンツを歌うようにし、やり取りの場面が視覚的に分かるようにする。

(2) 自分の思いを伝え合う

○児童にとって必然性のある活動内容の工夫

お世話になった6年生に Thank you カードを作って、感謝の気持ちを伝えることを目的とした活動をゴールに設定した。また、カード作りで使うシールを、英語を使ったゲームで集めるようにすることで、より活動に必然性を持たせることができると考えた。

本時のポイント

6年生にプレゼントする Thank you カードの作成を通して、色を集める活動は、児童の主体的な活動を促す上で有効であったか。